

[007] 学生法政論集表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/26247>

出版情報：学生法政論集. 7, 2013-04-15. 九州大学法政学会
バージョン：
権利関係：

編集後記

今年も、力作が多数応募されました。掲載されていないみなさんも含め、論文を書くという経験は、きっと貴重なものになると思います。(爺)

社会科学系論文を書く人は「三重人格」になります。(1) 研究対象について学問的に悩ましく考察している自分、(2) 研究対象が社会問題である以上、書かれた論文世界の中に何らかの位置を占めているはずの自分、そして(3) なぜ私は他ならぬこの問題をかくも真剣に考えているんだろうと自問している自分、です。この三者の「対話」を聞き取る耳をなるべく鋭敏にしたいものです。言うは易し行うは難しの典型ではありますが。(AE)

私個人としては学生論集の審査にあたるようになって、今年度で5年目を迎えました。この間に少なくない論文を読ませていただきましたが、今年度はとくに、学生論集が学部学生の目標として定着しつつある、という印象を強く受けました。今後の発展がたのしみです。(IR)

「論文の執筆」というものは、その最中は苦痛(苦悩)を伴うものかもしれません。しかしその苦痛(苦悩)を経てこそ、得られた論文の価値はさらに上がるものと言えます。逆に言うと、苦痛(苦悩)を伴わずに得られた論文など、何の価値もありません。皆さんの論文を拝読して、皆さんの執筆時の苦悩を感じることができました。これからも頑張ってください。(MN)

考えたことを言葉にする作業の中で、これまでよりもずっと深くそれぞれのテーマについて考えたでしょうし、新しい問題意識にも出会えたのではないのでしょうか。そのような思考と記述の繰り返しの中で、これからも色々な問題について、じっくりと考える力を付けて頂きたいです。(K)

論文を投稿していただいた皆さんお疲れ様でした。

これからも何事も関心をもって専門的にそして理論的な表現で第三者に納得させる力強い論文を書いてほしいと思います。今後もどんどんチャレンジして思考力をつけていてください。皆さんの活躍を期待しています。(SU)

『学生法政論集』第8号(2014年3月発行予定)の募集につきましては、「九州大学法政学会ホームページ」および「法学部ホームページ」にてお知らせします(6月下旬予定)。
